

第1回八ッ場ダムモニタリング委員会

議事概要

「第1回八ッ場ダムモニタリング委員会」において、八ッ場ダムに関するモニタリング調査計画、モニタリング調査結果等の審議を行った。

主な審議結果は、以下のとおりである。

- モニタリング調査において、現在取得している調査データについては、将来的な活用も念頭に置いて調査すること。
- 水環境に関する調査については、現地の状況や調査結果に応じて、調査計画を見直しながら調査を実施し、令和5年度のモニタリング委員会で評価すること。
- ホタル類やオオムラサキなどの保全については、地元の方々の協力も必要である。地域のシンボルとして、ダム供用後も協力の継続をお願いしていくことが重要である。
- コウモリ類については、生態系を評価する上で重要な指標となるため、今後も注目して調査を実施してほしい。
- イヌワシ・クマタカについて、現在計画しているモニタリング調査期間内だけでの分析・評価は難しいため、中長期的な視点で監視していくことが必要である。
- 付着藻類について、綱レベルだけでなく、種レベルでの同定・分析を行い、詳細な分析・評価を行うことが重要である。
- ダム下流河川でのシンジュ（外来植物）の増加に注視すること。また、下流河川では既に樹林化傾向がみられるため、ダム供用後の植生遷移にも留意すること。

以 上